

平成 27 年度 学校 評価 実施 報告 書

次のとおり学校目標を実施しましたので報告します。

学校目標	取組の内容		校内評価		学校関係者評価	学校評価
	具体的な手立て	評価の観点	達成状況	課題・改善方策等		
<p>1 (教育課程)</p> <p>ものづくりを通して、自ら考え、課題を解決する実践力を育成するために、幅広い学びのシステムを構築する。</p>	<p>(1)資格取得の機会拡大を図り、取得計画参考資料、取得状況等の情報提供を活性化し、工業各科の補習指導を推進することで、資格取得率を向上させる。</p> <p>(2)個に応じた指導、補習等により、基礎学力定着と学力向上を図る。</p> <p>(3)地域や産業界の教育力を積極的に活用し、環境・エネルギー教育、工業科の知識・技術の向上を図る。</p> <p>(4)コンテスト、産業教育フェア、各種競技会等への取組みを推進し、授業で学習した知識・技能の活用を図る。</p> <p>(5)図書のデータベース化を完成し、図書館の活用を促進する。</p>	<p>(1) 資格取得の機会、効果的な情報提供、HP等の利用、補習指導、資格取得人数が拡大したか。</p> <p>(2)組織的は取組みを行ったか。</p> <p>(3)外部からの学びを活用できたか。</p> <p>(4)各種大会での取組みに成果はあったか。</p> <p>(5)図書館活用が促進されたか。</p>	<p>(1)・年度頭初に資格・検定等一覧を全生徒に配布、HPにも掲載し、取得奨励した。 ・国家資格の受験者総数は前年比 1.15 倍、合格者数は 1.7 倍に激増した。電気工事士は指導の改善と長期の計画的補習により第一種で合格率 70% (30 名合格)、第二種で合格率 42% (41 名合格) と大きな成果をあげた。第 1 種は全国ランキング 12 位。 ・ボイラー技士は合格率 50%に上昇、特定化学物質等作業主任者は受験者が増えて 100%合格した。一方、危険物取扱者乙種は合格率が 6%低下した。 ・検定 (4 種類) では合格率が 8%上昇し、講習会ではクレーン、電気取扱学科(高圧・特別高圧)の受講者・合格者数が増加した。 ・無線の国家資格指導を新規に行い、取得機会の拡大とともに、94.4%の合格率を達成した。 (2)試験前、放課後、長期休業中の補習を実施し、長期休業中の講座は昨年度比 90 人増加した。 ・習熟度に対応した教材の工夫と小テストの継続的实施により基礎学力定着・向上に効果があった。 (3)・1・2 年生の校外学習に工業施設見学を導入し、専門知識の必要性を理解させた。工場見学により、エネルギー教育の機会を設けた。 ・関東電気保安協会の出前授業、大学教授による「化学の世界」講座を実施し、学習意欲の喚起と技術者教育を行った。 (4)「ものづくりコンテストの県大会で優勝した。(電気工事、化学分析) ・産業教育フェア、宇宙 EV、ロボフェスタ、青少年会館主催ものづくり教室など生徒の積極的な参加があり、技能の活用に効果的であった。 (5)・蔵書のデータベース化を完成させた。 ・高文連の図書専門部門で本の紹介部門において入賞した。 ・図書館の利用促進のため、図書委員会が企画して、新規にクイズラリーやワークショップを開催し、延べ 30 数名の参加者を得た。</p>	<p>(1)・資格一覧表に就職との関連項目を加えて取得意欲向上を図る。 ・取得奨励の働きかけを三科で統一し、組織として推進する。 ・受験申し込み案内を随時 HP に載せ、保護者にも積極的に情報提供する。 ・担当科により指導体制とその効果にばらつきがある。本校の大きな特徴である資格取得を促進するため、所掌グループで指導方法、補習計画、指導分担等を策定し工業科全体で成果をあげる必要がある。 (2)・補習計画・内容の成果と課題を、新規に導入する学力テストとの関連で計り、基礎学力の定着から充実へと進める。 ・習熟度に応じた課題教材を教科として作成・共有し、基礎学力のみならず、学力向上を推進する。 ・ワークシート、小テスト、単元テスト等を継続的に活用し、学習意欲継続と学力向上を図る。 ・指導改善等のために教科会議を定期的に設定する。 (3)・施設見学の機会拡充を図り、内容、時期の検討と成果把握を行う。 ・職能協会、大学、専門学校など更に外部教育力の活用を工夫する。 (4)ものづくりコンテストへの積極的な参加と上位大会での入賞を目指す。 ・各種競技会、工業科の外部行事への生徒の参加募集を工夫し、工業科の業務分担も工夫する必要がある。 (5) 利用する生徒が限定されがちなため、新規利用者促進のため、キャンペーンを企画する。 ・図書委員会を活性化し利用促進と、読書活動の推進を図る。</p>	<p>(保護者)</p> <ul style="list-style-type: none"> 資格や検定の一覧表はとても分かり易く役立った。HP への掲載が頻繁にあるとよい。 電気工事士受験にあたり、熱心な指導に感謝したい。 意欲を引き出すために資格取得のメリットを職業内容や収入との関連で説明するとよい。 <p>(学校評議員)</p> <ul style="list-style-type: none"> 資格は技能の実力を認定するものであり、それを活用している社会人から話をしてもらうなどしたらどうか。 電気工事士は電気関係の職種にとり必要最小限の資格である。一層の充実を期待したい。 危険物、有機溶剤に関する資格は化学科生徒以外にも積極的に取得させることが本人の貴重な財産になる。 外部見学、コンテスト等への参加は生きた教育の場であり、積極的に取り入れるとよい。 出前授業は実践の場であり、負担は大きいと思うが充実した内容に調整することが重要である。 	<p>(学校評価)</p> <p>1) 国家資格合格者が前年比 1.7 倍で 58 人増、合格率は 11.2% 上昇して 34.2%、電気工事士は指導改善と長期補習により 1 種合格率 70% (30 名合格) と躍進し、全国ランキング 12 位であった。</p> <p>・危険物取扱者は合格率が 6%低下しており、工業科あげての指導改善が必要である。</p> <p>・新規に特殊無線技士、アマチュア無線の受験指導を行い、94.4%の合格率を達成した。</p> <p>(2)・基礎学力養成、発展学習の補習等長期休業中の講座数が 7 講座増え、受講生が 203 名から 298 名に増えた。</p> <p>・習熟度に応じた教材、小テスト継続を一部教科で行い効果があった。</p> <p>(3)1・2 年生の校外学習のねらいに工業教育を加え、工業施設見学を導入した。</p> <p>・協会や大学による出前授業を継続的に実施した。</p> <p>(4) 技能の活用でものづくりコンテストで 2 部門が県大会優勝した。(電気工事、化学分析)</p> <p>・各種大会等への参加者が増えた。</p> <p>(5) 図書室利用促進のために図書委員が新たにキャンペーン企画を実施した。</p> <p>(改善方策等)</p> <p>(1) 資格一覧表に就職との関連項目を加える。受験申込みを HP に掲載して保護者に情報提供する。 ・生徒への取得奨励の働きかけ方を検討する。 ・科による指導のばらつきをなくすため、グループで指導体制、補習計画、方法を策定する。 ・補習時間の確保等について高校改革検討チームで検討する。</p> <p>(2) 新規導入学力テストを学力向上に活用する。 ・教科会を定期設定し、単元テスト、教材、指導改善の工夫等を教科で検討・共有する。</p> <p>(3) 工業施設見学を修学旅行にも加え、見学の学習成果と課題把握をきちんと行う。 ・外部教育力活用を活性化する。</p> <p>(4) コンテストの関東大会入賞を目指す。 ・外部行事への生徒募集と教員分担を工夫する。</p> <p>(5) 図書委員会を活性化し図書室利用促進を図る。</p>

<p>2 （生徒指導・支援）</p> <p>自尊感情を育み、主体的に判断し、適切に行動する力を育成する。</p>	<p>(1)遅刻、服装等の指導経過を可視化し、指導プロセスを統一するなど、工業人として「あたりまえのことをあたりまえに」できる行動力を、組織的に育成する。</p> <p>(2) ルール・マナーの標語作り、ゴミ分別キャンペーン、効果的な交通安全教育などを実施し、自ら考え自立的に行動する力を育てる。</p> <p>(3)行動観察、学習指導会議等を活用し、支援の必要な生徒の早期発見と機動的、組織的な対応を行い、個に応じた指導と教育のユニバーサルデザイン化を図る。</p> <p>(4)外部機関・中学校との連携、保護者への教育相談だより等の情報提供を促進し、効果的に生徒を支援する。</p> <p>(5)生徒指導、支援教育の研修会を実施し、指導体制を充実させる。</p>	<p>(1)組織的、段階的な指導ができたか。</p> <p>(2)生徒が気づく・考える指導ができたか。行動が変容したか。</p> <p>(3)支援の必要な生徒の早期発見と機動的・組織的支援ができたか。</p> <p>(4)外部機関・中学校、保護者との連携促進ができたか。</p> <p>(5)研修会によりどのような効果があったか。</p>	<p>(1)・遅刻指導で新たな段階的指導と指導経過の可視化を、2学期から導入した。 1学期の遅刻数は過去3年の内で最も多かったが、2・3学期は昨年より減少した。 2学期末の遅刻者の割合は昨年度比で5.5%減少した。 ・服装指導は4月より明確な基準で実施したが、効果は表れていない。 ・ぶれない生徒指導が日常の「あたりまえのこと」の具体を生徒に気づかせることにつながった。 ・学年全体を組織的に指導するために、クラス指導と学年指導を段階的に組み合わせ、効果を得た学年がある。 ・校内外の巡回指導が効果をあげている。</p> <p>(2)・ルール・マナーを学童に寸劇で伝える新規取り組みを行い、自律心を育成した。 ・スケアード・ストレイトを実施し、生徒の交通安全に対する意識向上を図った。 ・生徒会、美化委員による「ごみ分別キャンペーン」を実施し、生徒からマナー向上を発信した。</p> <p>(3)・生活指導グループ内の組織体制を整えることで対応時間の短縮が図られ、効果的な生活指導を行えた。 ・学習指導会議とSOSシート、通年での支援連絡カードを整備するとともに、教員の意識が活性化し早期発見につながった。 ・支援体制のしくみが浸透しつつあり、教育相談コーディネーターを核として機動的、組織的に支援教育を推進できた。</p> <p>(4)外部専門機関やSCと効果的な連携を図ることができた。 ・教育相談だよりをタイムリーに発行し、教員の知識、スキルアップに効果があった。</p> <p>(5)生徒指導、支援教育の研修会を短時間ではあるが行うことで、支援教育に対する理解を深めることができた。</p>	<p>(1)遅刻指導の統計記録と段階的指導を更に徹底した上で、指導方法を検証する。 ・組織的・段階的な頭髪指導、服装指導の方法を検討する。 ・職員で基準に対する認識と指導方法の共有を促進する。 ・学年での組織的・計画的な指導を全学年で行う。 ・校内外の巡回指導を継続して行う。 ・SNS関連指導を工夫・促進する。</p> <p>(2)・学童対象のルール・マナーの取り組みを継続し、生徒の自律心育成を拡大する。 ・自転車利用のマナー向上が課題である。 ・ごみ分別キャンペーンを拡大するなど、生徒が生徒に伝えるルール・マナー向上の工夫と実践を広げたい。</p> <p>(3)・グループ及び学校全体の組織的推進体制を継承し、活性化を図る。 ・出欠状況の情報共有を非常勤講師も含めて確実に行う。 ・教育相談コーディネーターへの情報集中と支援会議、ケース会議の流れを強化する。</p> <p>(4)SSWや外部専門機関との連携を更に活性化したい。 ・今後は生徒・保護者への情報発信を行う必要がある。</p> <p>(5)生徒指導、支援教育の知識、スキルについて外部専門家を招いて研修する必要がある。</p>	<p>(保護者)</p> <ul style="list-style-type: none"> 遅刻の原因は家庭環境と本人の意識ではないか。遅刻の状況がすぐに家庭に届く工夫があるとよい。 本人の意識醸成のため、時間を守ることの重要性を、働く現場など実際の社会での例から教えることはどうか。 遅刻が累積したら反省文を書かせるなど、けじめの大切さを自覚させるべきである。 新規にPTAで自転車の安全とあいさつ運動を実施したが、あいさつをする生徒が多くうれしく感じた。先生方と一緒に行えればなお良いと思う。 <p>(学校評議員)</p> <ul style="list-style-type: none"> 社会の中で遅刻は許されない。学校教育の中でしっかり指導し遅刻ゼロを目指してほしい。 遅刻と進級・退学率の相関はある。登校時に職員が立寄り挨拶をするなど、入学時からの引き締めが肝心である。 服装の乱れは現場作業に従事するエンジニアにとって安全確保上重要であり、企業人としての常識である。日常生活での心がけが大切である。 学校全体として統一した一貫した指導をすることが大切である。 自転車のマナーは地域にとっても深刻な問題であり、引き続き指導を望む。 	<p>(学校評価)</p> <p>(1)遅刻指導は2学期から段階的指導を導入し、指導経過を可視化して微少の効果はあった。 ・服装指導は年度初めから基準を明確にしたが、指導体制にばらつきがある。 ・学年指導と校外巡回指導で一定の効果が見られたので継続、発展させたい。</p> <p>(2)新たにルール・マナーを学童に寸劇で伝える取り組みを行い、自律心を育成した。 ・スケアード・ストレイトを実施し、生徒の交通安全に対する意識向上に効果があった。 ・生徒会、美化委員による「ごみ分別キャンペーン」を実施し、生徒からマナー向上を発信した。</p> <p>(3)生活指導グループ内の体制工夫により組織的、機動的な指導を行えた。 ・SOSシートと支援連絡カードを整備し学習指導会議、ケース会議との連動を強化し、早期発見に効果を得た。 ・昨年構築した支援教育のフローを、教育相談コーディネーターを中心に活用推進できた。</p> <p>(4)外部専門機関やSCと効果的な連携を図り、ケース会議につなげることで支援が深まった。 ・教育相談だよりのタイムリーな発行により、教員の知識、スキルアップに効果があった。</p> <p>(5)短時間の研修はできたが、充実が必要である。</p> <p>(改善方策等)</p> <p>(1)遅刻指導は統計の迅速化、経過の把握によりグループが学校をリードする必要がある。担任は指導計画に沿って指導・記録をきちんと行う。 ・頭髪、服装指導は組織的、段階的な指導方法の構築が必要である。 ・組織的・計画的指導をすべての学年で行う。 ・SNS関連で未然防止の取組みを強化する。</p> <p>(2)生徒による学童対象の取組みは自発的行動に効果的であり継続していきたい。 ・PTAと協力して自転車のマナー向上を図っていきたい。</p> <p>(3)支援体制の継承と活性化を組織的に行う必要がある。 ・授業での状況把握と共有を非常勤講師とも連携して、確実に行う。</p> <p>(4)SSWや外部専門機関との連携を更に活性化しケース会議の迅速な開催を推進する。 ・生徒・保護者への情報発信を行う必要がある。 ・教育相談だより発行を維持する。</p> <p>(5)専門家による研修会を設定し、さらに知識とスキルアップをしていく。</p>
---	---	---	---	--	---	---

<p>3 〈学習指導・授業改善〉</p> <p>組織的な授業改善により、言語活動の活性化、協働的な学びを展開し、確かな学力を育成する。</p>	<p>(1)「わかる喜び」「達成感」を感じさせることで、基礎的知識・技能の定着と主体的に学ぶ力を育成する。</p> <p>(2)「考えを書く」「要約」「話し合う」「聞く」「発表」等の言語活動を活性化し、ICTの活用、チームで協力して課題を解決する学習活動を活性化する。</p> <p>(3)生徒に良い点を伝え、達成度の把握をスモールステップで行い、単元目標への学習課題設定及び指導に活かす。</p> <p>(4)効果的な授業研修会を実施し、協働的な学びの指導方法、指導と評価の関連等について研修する。</p> <p>(5)校内及び校種間で相互授業見学を活性化し、研修会等で交流を図る。外部研修会に積極的に参加し研修の機会拡充を図る。</p>	<p>(1)生徒による授業評価、学習状況調査等の結果はどうか。</p> <p>(2)言語活動、ICT活用、チームでの学習活動を活性化できたか。</p> <p>(3)生徒に肯定的評価を伝えたか。達成度把握をスモールステップで行い、課題設定・指導に活かせたか。</p> <p>(4)研修会が授業や評価に活かせたか。</p> <p>(5)校内及び他校種等との授業見学等が活性化したか。研修会への参加状況はどうか。</p>	<p>(1)生徒による授業評価では、教科によるばらつきが多少あるものの1回目より2回目の評価が高い。「学習意欲」と「主体的な学習活動の授業展開」については他の項目より低い。</p> <ul style="list-style-type: none"> 普通教科と工業専門教科を関連付けた授業展開を工夫した教科があった。 <p>(2)授業改善のテーマに「言語活動の充実」と「協力して課題を解決する学習活動」を設定し、全教科で取り組んだ。</p> <ul style="list-style-type: none"> 「協力して課題を解決する学習活動」を展開した授業では、学習への主体性と意欲喚起に効果的であった。また、協調性、公正な判断力など、課題解決能力向上にも効果がある。 ICT利用マニュアルを作成し、プロジェクターとPCを常時設置する教室を整備した。 <p>(3)スモールステップで単元テスト、ワークシート等を活用して生徒に肯定的なフィードバックをすることで、達成感につながり、学習意欲喚起に手ごたえを感じた教科が多い。</p> <p>(4)授業改善のための校内研修会で生徒対象に模擬授業を実施し、中学校からも参加していただくことで、知見を広げることができた。</p> <p>(5)校内相互授業見学を2回実施した。参加者数は若干増えたがまだ十分ではない。</p> <ul style="list-style-type: none"> 授業見学メッセージシートに記入される内容や視点は増えている。 中学校の授業研究会に参加し、主体的な学習、授業のユニバーサルデザインについて研修したが、校内での共有に課題が残った。 	<p>(1)わかる授業のために、生徒の思考過程や個人差に配慮した自主教材作成や質問方法の工夫を行う。</p> <ul style="list-style-type: none"> 主体的な学習活動を、言語活動とともに全教科で活性化し、主体的に学ぶ力を育成促進する。 効果的な授業評価の項目を検討する。 <p>(2)学習内容とねらいに応じて、ペア、グループ、個人など学習集団の単位を適切に選択し、生徒が積極的に学べる授業作りを行っていききたい。</p> <ul style="list-style-type: none"> ICTの利用について単発でなく、単元の中で計画的な活用をしていきたい。 ICTを活用したチーム学習の事例研究など研修が必要である。 <p>(3)単元目標、授業目標を生徒の実態に即して計画的かつ明確に定める。</p> <ul style="list-style-type: none"> 教員の段階的指導と生徒自身の達成度把握をスモールステップで行い、学習意欲喚起から継続へとつなげる。 <p>(4)協働的な学びの手法の研修は、専門家をお願いする時期にきている。</p> <ul style="list-style-type: none"> 効果的な校内研修会の検討を行っていく。 メッセージシートの記載内容を十分に共有する工夫が必要である。 授業改善だよりのようなものを発行して、指導方法の紹介とともに、認知心理の観点から指導方法を検討することも考えられる。 中学校、小学校への授業見学を促進し、得たものを校内できちんと共有していく。 	<p>(保護者)</p> <ul style="list-style-type: none"> 授業で先生の声や話し方など、聞き取りにくい箇所がでるとつまづいてしまい、学習意欲につながりにくい。 <p>(学校評議員)</p> <ul style="list-style-type: none"> 横須賀工業高校を受験したい中学生は、就職、資格、技術取得に関心がある生徒が多いので、今後も指導に期待している。 この勉強が何につながるのかということを認識させることが意欲の向上につながる。 卒業生・社会人から経験談や成功事例の講演、大学や企業見学、産学連携の研究を大学で行っていることなどを紹介するとよい。 プレゼンテーションは社会人としても重要な要素であり、その基礎を学力は言うまでもなく重要である。 中学校との授業研修会は今後も中高接続のため継続していきたい。 言語活動の活性化は小・中学校でも研究している。高校との関連も含めて今後、相互授業見学などを促進していきたい。 	<p>(学校評価)</p> <p>(1)生徒による授業評価では、教科によるばらつきが多少あり、1回目より2回目の評価が高い。</p> <p>(2)授業改善のテーマに「言語活動の充実」と「協力して課題を解決する学習活動」を設定し、全教科で取り組んだ。</p> <ul style="list-style-type: none"> 「協力して課題を解決する学習活動」を展開した授業では、学習への主体性と意欲喚起を図ることができた。 ICT利用マニュアルを作成し、プロジェクターとPCを常時設置する教室を整備した。 <p>(3)ほとんどの教科でスモールステップでの指導と達成度把握を行い、肯定的な評価を生徒に伝えることで、学習意欲の喚起を図った。</p> <p>(4)生徒対象の模擬授業で研修会を実施し、中学校からも参加していただき、知見を広げることができた。</p> <p>(5)校内授業見学の参加が少ない。</p> <ul style="list-style-type: none"> 中学校の授業研究会に参加する教員が増えた。 <p>(改善方策等)</p> <p>(1)学習意欲喚起のために、生徒の思考過程や個人差に配慮した教材作成や質問の工夫を行う。</p> <ul style="list-style-type: none"> 学習のねらいを明確に生徒に伝え、達成するための指導方法と生徒に達成度を自覚させるしくみを研究、実践する。 効果的な授業評価の項目を検討する。 工業科学習に関連の深い教科の学力向上を図る。 <p>(2)全ての教科で主体的な学習活動を言語活動とともに活性化し、主体的に学ぶ力を育成する。</p> <ul style="list-style-type: none"> 授業での効果的なICT利活用のために研修会を計画する。ICTを活用した事例集を整備する。 <p>(3)単元目標、各授業目標を計画的に設定し、生徒に明確に伝える。指導段階をスモールステップで設定し、主体的な学習活動で授業展開する。</p> <ul style="list-style-type: none"> 生徒が学習成果と課題を自覚できるように、学習カードやワークシートを効果的に活用し、学習意欲の継続と学力向上を図る。 <p>(4)協働的な学びの手法の研修は、専門家へのお願いを検討する。</p> <ul style="list-style-type: none"> 中・高の接続の必要性から、中学校での授業研究会への参加を継続したい。 研究授業を全教科に拡大する。 <p>(5)相互授業見学を活性化し、メッセージシートの内容の共有を工夫する。</p> <ul style="list-style-type: none"> 他校での研修成果を校内で共有する。 授業改善のための情報提供により、認知方法、学習機能のしくみ、指導方法を研修する。
---	--	---	--	---	--	---

<p>4 〈キャリア教育〉</p> <p>外部教育力との有機的な関連を図り、全ての教育活動で一步踏み出せる行動力を養うことで、社会的・職業的自立のための力を育成する。</p>	<p>(1)生徒会活動、学校行事、部活動を活性化させ、ねらいと指導方法の関係性を強化することで、主体性、創造力、人間関係形成力を育成する。</p> <p>(2)インターンシップの指導を充実させ、他者と連携・協働しながら一步踏み出せる行動力を育成する。</p> <p>(3)外部講師によるプレゼンテーション講座を継続し、校外の発表会に参加する。</p> <p>(4)LHR、進路活動等のリンクを図り、効果的な進路指導計画を策定、実施する。</p> <p>(5)保護者への進路情報の発信を活性化し、外部機関・学年等とグループの丁寧な連携を通して、きめ細かな指導を行う。</p> <p>(6)外部教育力を活用し、消費者教育、マナー教育等のシチズンシップ教育、各種キャリア教育を推進する。</p>	<p>(1)ねらいと指導方法の関連性が強化できたか。</p> <p>(2)インターンシップで主体的な行動力の評価が事業所から得られたか。</p> <p>(3)プレゼンテーション能力育成と外部発表会への参加はできたか。</p> <p>(4)効果的な指導計画が策定できたか</p> <p>(5)保護者への発信活性化、校内・外との丁寧な連携が行えたか。</p> <p>(6)外部教育力を効果的に活用し、キャリア教育ができたか。</p>	<p>(1)生徒会役員が課題意識をもって行事運営し、また部活動の活躍などで、主体性、創造力、人間関係形成力の育成に効果が出ている。</p> <ul style="list-style-type: none"> 生徒会役員が校内あいさつ運動、ごみキャンペーン等能動的に活動することで、全校生徒への意識付けになっている。 ボウリング部は高校日本一、電子研究部は高文連教育長賞受賞、世界大会2位を獲得するなど、地道な活動が実を結んだ。 ダンス部が新規に地域の祭りに参加し好評を得た。 野球部、バスケット部が日常的に校内外の清掃などで貢献している。 学年集会を定期的に実施し校外学習など学年行事のねらいを達成することができた。 <p>(2)インターンシップにより、職場におけるコミュニケーションの大切さと技術活用を実体験し、意欲向上につながっている。</p> <ul style="list-style-type: none"> 事業所からは、5日間の生徒の成長を評価いただいている。 <p>(3)外部講師によるプレゼンテーション講座を2年連続実施し、生徒研究発表会、インターンシップ発表会などで活用できた。</p> <ul style="list-style-type: none"> 今年度は、キャリア教育発表会で発表するとともに、発表会自体の司会も担当し、主催者や来場者から評価していただいた。 <p>(4) 進路指導に関連して、できる範囲でLHRを活用した</p> <ul style="list-style-type: none"> 1学年は定期的な学年集会を、進路指導に活用できた。 年間の各学年のLHR指導実績をまとめ、進路指導計画とのリンクの検討を始めた。 <p>(5)進路行事をホームページに掲載するとともに、マチコミメールを活用して進路行事への参加を保護者に案内した。</p> <p>(6)外部と連携し、上級学校、企業についてガイダンスを実施した。</p> <ul style="list-style-type: none"> 「進路を語る会」には、直近の卒業生に加え、新たに中堅の社会人を招いて、職業選択に長期的な視点の必要性を意識させた。 マナーや道徳心については、全職員による校内で統一のとれた指導が必要である。 	<p>(1) 1学年が部活動の加入促進を図り昨年度は加入率39.8%だったが、本年度は42.1%に上昇した。担当グループが加入促進方を計画し、部活全体で取り組んでいくことが更なる向上につながると考える。</p> <ul style="list-style-type: none"> 地域連携や校内外ボランティアに取り組む部活動を増やすための工夫が課題である。 <p>(2)217名の生徒が5日間66の事業所でインターンシップを体験することは意義深いことである。事前指導、事後指導の充実がこれからの課題となる。</p> <p>(2)事業所からの評価として、仕事に対する意欲、主体的な行動について課題が残った。</p> <ul style="list-style-type: none"> インターンシップ前までに各能力育成については、更に効果的な内容となるよう方策を検討する。 <p>(3) プレゼンテーション研修会を継続し、更に受講する生徒を多くする。</p> <ul style="list-style-type: none"> 校内外での各種発表の機会を積極的に活用し、多くの生徒に体験させたい。 <p>(4)LHR活用において、進路指導と学級活動のバランスをとりながら、学年ごとに計画する必要がある。</p> <ul style="list-style-type: none"> 授業時間の確保の観点からもLHRの有効活用は次年度の優先課題となる。 <p>(5)学年保護者会で進路情報を発信したが、更に年間を通しての計画的発信が必要である。</p> <ul style="list-style-type: none"> 説明会や面談などの情報が、生徒から保護者に届かないことがあったため、マチコミメールへの登録を促進する。 <p>(6)キャリア教育実践プログラムに基づいて各グループ担当の教育活動を効果的に実施する。</p> <ul style="list-style-type: none"> 3年間を見通してのガイダンス、保護者会、各種講演会などに加え、外部学力テストも含めての進路指導計画を再構築する必要がある。 職場で1年間以上、仕事に従事している卒業生の話しは説得力があった。今後も継続していきたい。 	<p>(保護者)</p> <ul style="list-style-type: none"> インターンシップに参加したことで専門的な職業経験ができたので近い将来の実感が持てたと思う。子供の社会的視野も広がったように思う。 子供を通じての家庭向けの通知がなかなか届かない。説明会や懇談会の開催に関してのお知らせメールなどを更に期待したい。 行事のお知らせなどは早めに日程を知らせてほしい。 <p>(学校評議員)</p> <ul style="list-style-type: none"> インターンシップは学校生活のみでなく、社会生活に役立ち、大変効果的だと思う。今後も続けてほしい。 インターンシップは社会人としての自覚を促す上で重要であるが、企業側の負担も大きいことを十分配慮しての取り組みが重要である。 プレゼンテーションは日本人の最も欠落した能力(今まで教育の場で取り上げてこなかった)であるが、企業人としては今後ますます必要な能力である。できるだけ早い時点で機会を捉えての指導が必要である。 外部講師によるプレゼンの指導(先生と生徒の馴れ合いを排除した指導)は今後とも強化する必要がある。 文化祭でのパネルの作成、科展などで来場者への説明などに、実践の場として活用することも考えられる。 科の課題研究発表会などをポスターセッション、プレゼンテーションなど多くの人が見て聞ける展開につると実践にも繋がる。 	<p>(学校評価)</p> <p>(1)生徒会行事は 役員の活躍で主体的運営ができています。部活動の加入率を更に増やすことが課題である。</p> <ul style="list-style-type: none"> 地域連携、ボランティアなどを生徒の発想で主体的に行うことで人間力を育成したい。 <p>(2)インターンシップは定着しており、働くことの意識啓発、職業選択、学習への意欲向上、学校生活への取組みなどの面で一定の成果はでている。より高い意欲を持たせることと、インターンシップ実施前までにより高い主体性、積極性などを育成することが課題である。</p> <p>(3)外部講師によるプレゼンテーション講座も2年目となり、校内はもとより、校外の発表会でもその効果は表れてきた。今後はより多くの発表の場に多くの生徒を参加させ、発表能力育成の裾野を広げたい。</p> <p>(4)年間の各学年のLHR指導実績をまとめたが、進路指導や学級活動のバランスについて検討する必要がある。</p> <p>(5)年間を通じての保護者への情報発信の内容と方法を工夫する必要がある。</p> <p>(6) 「進路を語る会」には、新たに中堅の社会人を招いて、職業選択に長期的な視点の必要性を意識させた。(改善方策等)</p> <p>(1)年間行事計画で生徒会行事の効果的な時間確保を行いたい。</p> <ul style="list-style-type: none"> 部活動加入促進の方法をグループで策定する。 部活動等を通して、小・中学校や地域との交流活動を促進する。 <p>(2)インターンシップ直前の指導ではなく、入学から実施までの1年半で、人間関係形成、自主性、積極性をキャリア教育で育成していく。</p> <p>(3)プレゼンテーション研修会を継続し、更に多くの生徒が受講できる工夫をする。</p> <ul style="list-style-type: none"> 校内外で生徒が発表する機会を増やし、より多くの生徒に発表体験をさせる。 <p>(4)年間の各学年のLHR計画を進路指導とのリンクを含めて策定し、指導のためのワークシート等を整備する。</p> <p>(5)マチコミメールへの登録促進を図る。</p> <ul style="list-style-type: none"> 進路行事への保護者の参加促進を図る。 <p>(6)ガイダンス、面談の内容、保護者会、学力テスト等の活用を含めて、3年間を通しての進路指導計画を再構築する。</p>
---	--	--	--	---	---	---

<p>5 〈地域等連携〉</p> <p>地域・社会との交流を通して知識・技能の活用、コミュニケーション能力の向上を図り、開かれた学校づくりを推進する。</p>	<p>(1)保護者・地域等と連携し、地域行事への積極的な参加を促進する。</p> <p>(2)ホームページへの掲載を迅速に行い、内容の充実を図る。</p> <p>(3)学校説明会等で工業科の学習の成果を紹介するなど特色発信を積極的に行う。</p> <p>(4)オープンスクール、部活見学などで中学生等が見学し易い工夫を検討する。</p> <p>(5)地域防災行事等に生徒の見学・参加を実現させる。</p>	<p>(1)地域連携活動の広がり、深まりがあったか。</p> <p>(2)掲載の迅速性と内容充実は図れたか。</p> <p>(3)効果的な特色発信ができたか。</p> <p>(4)参加者が増加したか。</p> <p>(5)地域防災行事に生徒が参加できたか。</p>	<p>(1)公郷小学校 6 年生との交流授業、青少年会館主催のものづくり教室、地域や小学校行事におけるものづくりなどを実施し、様々な年齢層の方との交流、工業技術の活用、コミュニケーション能力育成を図った。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学年単位での全校地域清掃等を実施した。 ・学童対象にルールを学ぶ出前授業を実施し、地域と互いに支え合う関係性を築いた。 <p>(2)昨年構築したホームページ掲載のフローを活用し、進路行事、学年行事、各種教育活動、地域連携、生徒の活躍など、多様な記事掲載を行った。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・記事内容が豊富になり、迅速性も昨年度よりはるかに増した。 <p>(3) 学校説明会で、工業科の学習について生徒が自らプレゼンテーションを行うことで、中学生により身近に工業高校を感じてもらえた。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学校案内の内容を整理し、中学生にわかりやすい掲載にした <p>(4)オープンスクールにおける部活動体験・見学を、昨年度は5つの部が実施したが、今年度は13の部に増やした。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・本校独自の学校説明会・体験休学、オープンスクールを実施しているが、保護者と中学生あわせて1000人弱の参加者があった。また平成26年度と比較すると参加者数は若干増加した。 <p>(5)地区の地域連携会に教員が出席し、地域の防災行事への参加等について、意見交換を行った。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・本校は県内に8箇所ある地域の救援等の前線基地として「広域防災活動拠点」のひとつとして指定されている。また、グラウンドは横須賀市から「広域避難所」に指定されており大火災が発生したときの一時避難場所としての役割を担っている。この点からも学校のみではなく、地域と連携した防災活動に取り組まねばならない。 	<p>(1)各行事には大きな意義があり継続・発展させていくとともに、内容の充実と効果的な方法について更に検討を続けていきたい。</p> <p>(2)部活動、学年、担当グループなどにより、記事掲載の頻度や迅速性が課題である。より多くの情報発信を行うことで、本校の特色発信と開かれた学校づくりを推進したい。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・中学生とその保護者を対象にした記事を更に充実させていく。 <p>(3) 学校説明会の内容で、カリキュラムと進路について具体を工夫したい。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学校案内の改定を更に行いたい。 ・工業科の授業体験に多くの中学生が参加できるよう工夫をする。 ・生徒主体の学校説明会を企画すると共に、参加者を増やす工夫が不可欠である。 <p>(4)オープンスクールでの授業見学時間を増やし、より多くの授業や施設を見学できるように改善する。</p> <p>(5)地域連携会や防災訓練に職員が参加するとともに、次年度は生徒を参加させたい。</p>	<p>(保護者)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ボランティアなど地域貢献は参加する、体験することで意識が芽生えたりする。参加レベルごとにポイント制などを導入してはどうか。 ・小学校との交流授業や地域の行事への参加は良いことなので良い結果が出てうれしい。 ・地域清掃などは多人数で行うよりクラスごとに実施した方が全体の回数も増え、地域へのアピールにもつながると考える。また、少人数の方が先生方の目も行き届くと思う。 <p>(学校評議員)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・12月の交流授業では、準備や指導が手厚く、モーターを持ち帰った生徒達が非常に喜んでた。指導に携わった生徒達は教える立場に立ち、とても堂々としていた。生徒の活躍の場が多いことはとても良いことである。 ・小学校では毎月のあいさつ運動が定着している。児童と高校生が挨拶を交わす様子はさわやかである。 ・出前授業はあらゆる点で「生きた教育の実践の場」である。負担は大きいと思われるが、受け入れ側と調整し、充実した内容で実施してほしい。 	<p>(学校評価)</p> <p>(1)新規に小学校との理科の交流授業を行い、工業科の学習内容で小高連携ができたのは大きな成果であった。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・新規に学童保育の児童を対象に、生徒による出前授業を実施し、地域と支え合う関係性構築を図った。 ・全校生徒による地域清掃にはその方法と指導体制に課題がある。 <p>(2)ホームページのフロー活用については、その内容の充実とともに記事の多様さ、迅速性において大きな前進をした。</p> <p>(4)オープンスクールでの体験・見学部活動が増え、体験人数が増えた。</p> <p>(5)地域連携会議に職員が参加したが、生徒の参加は実現できていない。</p> <p>(改善方策等)</p> <p>(1)公郷小学校との交流授業、生徒によるルールを教える出前授業は継続し、地域との関係を深めていく。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地域清掃は、少人数班に分割してエリアを広げ、地域とのコミュニケーションを図るためにも、学校名がわかるような工夫をする。 <p>(2)部活、学年、担当グループなどによる記事掲載の頻度や迅速性に差が出ないように効果的な掲載を進める。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・定例発信の記事を指定し、計画的・安定的な運用をする。 ・中学生向けの発信を充実させる。 <p>(3)学校説明会では、カリキュラム、進路について内容を充実させる。パワーポイントを改善し、さらに工業の特色と生徒活動のようすを発信する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・体験授業についても参加人数や範囲の拡大を検討する。 <p>(4)オープンスクールでの部活体験は更に活性化し、授業見学時間を増やし、より多くの特色や施設の見学ができるようにする。</p> <p>(5)地域連携会に職員が参加し、防災行事等に職員、生徒が参加するよう計画を立てる。</p>
--	--	--	---	---	--	--

<p>6 学校運営・学校管理)</p> <p>学校評価を活用し、研修・改善の継続と、安全・安心な教育環境の整備を進める。</p>	<p>(1)教育課題に対応した職員研修を積極的に実施し、指導力向上と教育力継承を図る。</p> <p>(2)業務の組織的な執行体制と効率化、情報の共有化により事故防止を図る。</p> <p>(3)各教育活動のねらい、指導方法、効果の検証を行い共有することで、継続的に教育課題の改善を行う。</p> <p>(4)実効性のあるわかり易い評価方法、指標により、学校評価の活用を促進する。</p> <p>(5)生徒が自ら考えて行動できる多様な防災教育を実践し、生徒保健活動の成果等を共有するなど、自立的に命を守る力を育成する。</p> <p>(6)教育施設・設備の点検、補修を計画的に行い、安全な教育環境整備に努める。</p>	<p>(1)効果的な研修ができたか。</p> <p>(2)点検体制、業務の効率化、情報の共有化はできたか。</p> <p>(3)検証は定着したか、課題の改善状況はどうか。</p> <p>(4)評価方法の工夫、学校評価は効果的にできたか。</p> <p>(5)多様な防災教育が行えたか。</p> <p>(6)安全な教育環境が整備できたか。</p>	<p>(1)授業改善のための校内研修会に中学校から参加いただいた。 ・外部研修の成果をグループ内で共有した。</p> <p>(2)業務分担の明確化とともに、情報交換を活かして状況に応じた業務を円滑に行った。 ・成績処理の点検方法を組織的に効率よくできるように改善した。 ・進路の作業マニュアルを改訂することにより効率化を図った。 ・学年会の定期開催により情報共有を定例化し、学年指導を効果的に行えた。</p> <p>(3)各教育活動の実施要項に「課題と改善」の項目を設定し、前年度の課題を明確にするとともに、改善点がわかるようにポイント化した。 ・学年行事で生徒にアンケートをとり、成果と達成度を確認した。今後にどう生かすかがポイントである。</p> <p>(4)保護者アンケートを昨年度より早く集計し、課題と要望に対する対応を迅速に行った。課題と対応をホームページに掲載し、保護者にフィードバックした。 ・年度の中間評価を行ったが、さらに丁寧な分析が必要である。</p> <p>(5)地震・津波避難訓練と帰宅集合訓練を一体化し、教員引率でなく、自分で避難経路を判断するといった、より実践的な訓練を実施した。 ・新規に防災避難のための図上研修を職員で行った。 ・生徒保健活動研究発表会で地区高校生の多様な視点からの取組み、成果を共有できた。また、地区発表会の成果を終業式で発表し、全校で共有した。</p> <p>(6)6月に全職員で施設・設備の一斉点検を行い、必要な修理、対応を迅速に行った。 ・防災マニュアルを3回改訂し、防災時の組織的な執行体制を見直すとともに、マニュアルのポケット版を職員に配布し、情報共有を図った。 ・年度初めに部活動の実態に応じて部室移動を行い、環境整備した。</p> <p>(6) 校舎の老朽化に伴う施設や設備の修理、・修繕を県の財務課等との連携のもと取り組んでいるが費用の面もありまだ十分とはいえない。</p>	<p>(1)授業改善研修は、2年間の前進の先に、更に推進する必要がある、内容、形態、継続性が課題である。 ・相互授業見学を全職員で行う。 ・グループ内での共有にとどめることなく、復命研修を活性化する。 ・生徒指導、支援、指導と評価等に関する研修会を計画する必要がある。</p> <p>(2)一部のグループ、学年の効果的な取り組みを学校全体で行うことが課題である。 ・年度途中で業務分担の偏りを互いにフォローしていきたい。</p> <p>(3)職員の業務における計画段階での「課題と改善」はほぼ定着したが、実施後の検証と次への改善を、各セクションで主体的に回していくことが課題である。 ・生徒の視点からの検証にも配慮していく。質問設定の在り方も重要である。</p> <p>(4)保護者アンケートや中学生と保護者へのアンケートの質問を検討し、本校の学校改善に有効なものにしていく。 ・授業、進路、生徒指導に関する実効性のある評価方法を研究する。 ・年度の中間評価を丁寧に行うことで、学校目標の高度な達成を目指す。 ・担当グループ、教科、学年等が機動的、定例的にPDCAを回せるようにする。</p> <p>(5)前年度と変更した防災訓練を行うことで、想定外に対応できる個々の行動力を身に付けさせたい。 ・生徒に対する図上訓練を実施したい。</p> <p>(6)次年度から安全点検はグループ業務に位置づけ、継続的・定例的な環境整備を行う。 ・不祥事防止については継続して研修を行い、事故防止に努めなければならない。</p>	<p>(保護者)</p> <ul style="list-style-type: none"> 学校評価におけるPDCAサイクルは「見える化」が目的である。目標に向かっていかに取り組んできたかが重要である。 P T A活動は学校を主体的に運営している先生方に協力していくことがポイントと思う。保護者が一緒に取り組み協力することで実効性に効果があり、先生方にも相乗効果をもたらすのではと考えている。 いろいろな意見を保護者と先生方が気軽にらせる機会があるといいと思う。 <p>(学校評議員)</p> <ul style="list-style-type: none"> 技術の進歩は非常に早く、10年前には実現不可能と考えられていたものが開発される一方、匠の技が必要な世界も広がっている。現状の情報収集を積極的に行い、先を見た教育内容・方法をとり入れるなどして、変化をいとわず。明日の世界を担う人材を育ててください。 	<p>(学校評価)</p> <p>(1)授業改善のテーマに沿って研修会を実施し、中学校からの参加を得ることができたが内容の深化。恒常的な取り組みを組織的に行う必要がある。</p> <p>(2)成績処理の点検方法、進路業務マニュアルを改善し効率化を図った。</p> <p>(3)各実施要項に「課題と改善」の項目を設定し、前年度の課題を明確にするとともに、改善点を共有できるようにポイント化した。</p> <p>(4)保護者アンケートを早期に集計し課題対応を迅速に行った。懸案事項はPTAに協力を仰ぐなどしてアクションを起こしている。ホームページに掲載し、保護者にフィードバックした。</p> <p>(5)防災訓練を実態に即した柔軟性のある形態で実施した。</p> <p>(6)学校施設の一斉点検を実施し、迅速に改善した。防災マニュアルを改訂し、ポケット版を配布して職員で共有化した。(改善方策等)</p> <p>(1)授業改善研修会の検討をグループで主体的に行い継続性を図る。中学校との接続を意識する。 ・授業の相互見学を全職員で行う。 ・復命研修を活性化する。 ・生徒指導、支援、評価に関する効果的な研修を実施する。</p> <p>(2)情報の共有方法を会議、回覧、口頭伝達など適宜適切に選択し、業務や教育活動の機動性、効果を上げる必要がある。 ・効果的な一部のセクションの取組みを学校全体の組織として行っていく。</p> <p>(3)高校改革に伴い、プロジェクトチームを編成しセクションでの会議、企画会議等を活性化する。 ・「課題と改善」は継続し、実施後の検証とアクションへのサイクルを継続的に回していく。</p> <p>(4)生徒へのアンケート、保護者アンケートは、課題把握の意図に適した質問を検討する。また、検証結果と課題改善を迅速に行う。 ・新年度は入学生へのアンケートを行い、入学者選抜の課題改善に生かす。</p> <p>(5)多様な形態の防災訓練を行い個々の行動力を高める。図上訓練を生徒対象に実施する。</p> <p>(6)安全点検を管理グループに位置づけ安定的に環境整備を行う。</p>
<p>教育目標・教育方針・中長期的な方針など</p> <p>(教育目標) 高等学校教育を通して健全な心身と個性豊かな人間性を育成し、工業に関する知識・技能を修め、自主的、創造的精神を養う。</p> <p>(教育方針) 主体的に学び、考え、チャレンジして、他者と協働して課題解決できる生徒を育てる。</p>						